

閉校記念式典 < 3月20日 > ～学びやよ ありがとう～

家地川小学校

桜の名所、そして四万十川唯一のダムがある地域として、家地川は知られています。その高台に家地川小学校は、120年の歴史を刻んで参りましたが、過疎化・少子化の影響により、児童は卒業生3人を含め14人となり、平成22年度をもって川口小学校へ統合となりました。

式典では、最後の卒業生となる樹君、蓮野君、珠里さんの3人が「ぼくたちが最後の卒業生です。学校のシンボルであるけやきに見守られて成長してきました。私たちがこの家地川小学校に感謝していることは、この小学校に入学したからこそ、たくさんの大切な友だちができたこと、それとたくさんの大切な思い出ができたこと



です。他にもたくさん家地川小学校に感謝しきれないほどお世話になりました。この記念品として、いただいたカプセルは、13年後の自分にあてた手紙や思い出をつめて、埋めたいと思います。13年後の自分にはじないように、これから、それぞれの新しい学校に行っても、家

地川小学校の思い出を忘れずに、学校生活をがんばりたいです」と児童代表のこぼれを述べました。

その後、県内在住の歌手う～みさん、高知交響楽団、児童らが校歌や「ふるさと」「フレーフレー高知」を歌ったり、踊ったりして花をそえました。また、校庭では、家地川出身の造形作家友永詔三さん書の「けやき」記念碑除幕を行い、最後に自分にあてた手紙や写真を入れたタイムカプセルを埋めるなどして、学びやに別れを告げました。



志和小学校 思い出は一人ひとりの心の中に～志和小学校は心のふる里として～



ンボルとして多くの卒業生を輩出してきました。

過疎化、少子化の影響もあり、児童数は2人の卒業生を含め9人となり、平成22年度をもって閉校することとなりました。

式典中の「校旗返納」では、多くの地域の方々から「校旗を取り外す場面では、感無量で言葉では言い表すことのできない寂しさを覚え、涙がこみ上げてきた」と語り、あらためて地域に根差した小学校への感謝と誇りを出席者一人ひとりが胸に刻みしました。

志和小学校は、明治5年の太政官布告により薬師寺境内を学び舎として始まり、139年の間、志和地区の文化のシ

式典二部では、児童9人が学校行事や校外学習など、いろいろな思い出を記した作文を紹介。その後、志和に本籍をもつ、シャ乱Qつくさんから、ふる里志和へのメッセージが読み上げられました。小学校の前の川で沢ガニを獲ったことやせみ獲りをしたことなどを挙げ「一人ひとりの心の中にふる里志和はある」と、懐かしい少年時代を振り返るメッセージが紹介されると、同じ想いを抱いていた方々からは大きな拍手がわき起こりました。

式典終了後、記念碑の除幕。「ふる里の絆」という文字に、出席者は同じ想いを石碑に託しました。その後、盛大に宴が開かれ時間を惜しみながらも交流を深めることができました。

ありがとうございました、志和小学校。いつまでも、いつまでも、いつまでも心の中に。

